

畑地かんがい用水をフル活用し、農産物の価値を創造する未来型の農業経営を実現～有限会社 大崎農園(法人番号:7340002027447)～

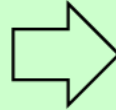
経営体の概要

設立年度：平成14年

基幹作物：葉ねぎ

作付面積：約5ha

雇用：常時14名、臨時6名



現在：平成27年

基幹作物：葉ねぎ、だいこん、キャベツ

作付面積：約89ha

雇用：常時32名、臨時6名

取組の経緯と経営転換のポイント等

平成10年に新規就農。平成14年に大学の同級生3人で法人化。

事業参加で確保した畑地かんがい用水をフル活用し、施設70棟2.4haと露地71.0ha（自作地0.3ha、年間借地5.0ha、期間借地65.7ha）で葉ねぎ（施設8.0ha、露地15.0ha）の周年栽培、ミニだいこん（施設1.2ha）や、かんしょ後の期間借地でだいこん（63.0ha）とキャベツ（2.0ha）の生産規模を拡大し、販売額約4億円の大規模農業法人として成長。

営農改善のポイント

①栽培技術の確立・向上

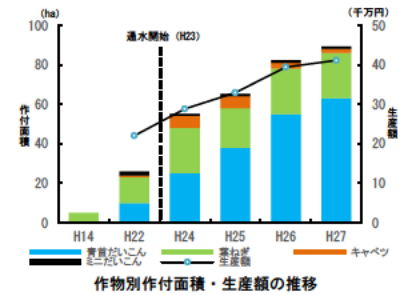
現在38名を雇用する中で、農作業マニュアルの策定、生産工程・作業時間の数値化に取り組むなど、農業経営を見える化し、経営の効率化と生産性を向上。



有限会社大崎農園の施設の様子

②単収・品質の向上

不安定な地下水依存の営農から、平成23年の通水以降、安定的な用水確保により、作付面積を通水前(平成22年)の施設野菜10.0ha、露地野菜21.5haから、現在の規模へ飛躍的に拡大。熱水消毒機の導入や継続的な土壌診断とゼオライト、堆肥、緑肥による土壌環境調整で生産と品質を安定化。一方、露地では、自走式散水器具も導入し、かん水作業の省力化と生産性の向上を実現。畑かんマイスターとして畑かん営農の普及にも貢献。



葉ねぎ施設かん水の様子

③流通・販売の工夫

GLOBAL G.A.P、K-GAPを取得。かごしまのIPMキャラクター使用で商品を差別化。県内量販店との葉ねぎ青果用契約栽培が7割、関東方面への業務用の契約栽培にも取り組み、安定的な収益を確保。

事業概要

事業種：かんがい排水事業

関係市町：鹿児島県鹿屋市、志布志市、大崎町

受益面積：4,000ha

事業期間：平成元～20年度（機能監視：23年度）

事業目的：畑地かんがい

主要工事：ダム1箇所、揚水機場8箇所、用水路95.1km

位置図（鹿児島県）



<問い合わせ先>

九州農政局

農村振興部農村環境課

電話：096-211-9681

（内線：4666）

（平成28年度調査時点）